



Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

NO. 4

平成28年6月9日

編集・発行

学校支援課 広報担当

いじめの積極的な認知に向けて

AくんはいつもBくんと楽しそうに遊んでいるけれど…でも、じゃれているのか、たたかれているのか判断に迷うことがあるんだよな。



法で定義するいじめは、加害者の意図に関係なく、被害者が自分の受けた行為をいじめと感じたらいじめであるという、**被害者の立場に立ったもの**です。そのため、わたしたちも法の趣旨を踏まえていじめを正しく認知していくことが大切です。

①大ごととして受け止める

子どもが発する合図(訴え, 相談, サイン)は, 子どもからのSOS信号です。受け手であるわたしたちの感覚ではなく, 子どもの思いに寄り添って丁寧に受け止めましょう。

積極的な認知のポイントは…

②「あれっ?」「おやっ?」を見逃さない

一見いじめには見えないものの, 子どもの表情や雰囲気, かかり方の様子に感じる「違和感」「引っかかる感じ」を大切にしましょう。

③「大丈夫」を過信しない

子どもに「大丈夫?」と声をかければ, 「大丈夫。」と返ってくるのがよくあります。しかし, 大丈夫ではないから, サインを発しているのです。

④職員間で情報共有する

気になることがあったら, 同僚や上司, 校内いじめ対策組織に積極的に情報提供し, 複数で判断・対応することが大切です。



このような視点に立って, 子ども同士のトラブルを, まずいじめと受け止めて対応をスタートすることが, 認知漏れを減らすことにつながります。また, 一人で抱え込まずに組織で情報共有することが, 早期の対応につながるだけでなく, 教職員のいじめ認知のアンテナの感度をそろえ, 高めることとなります。

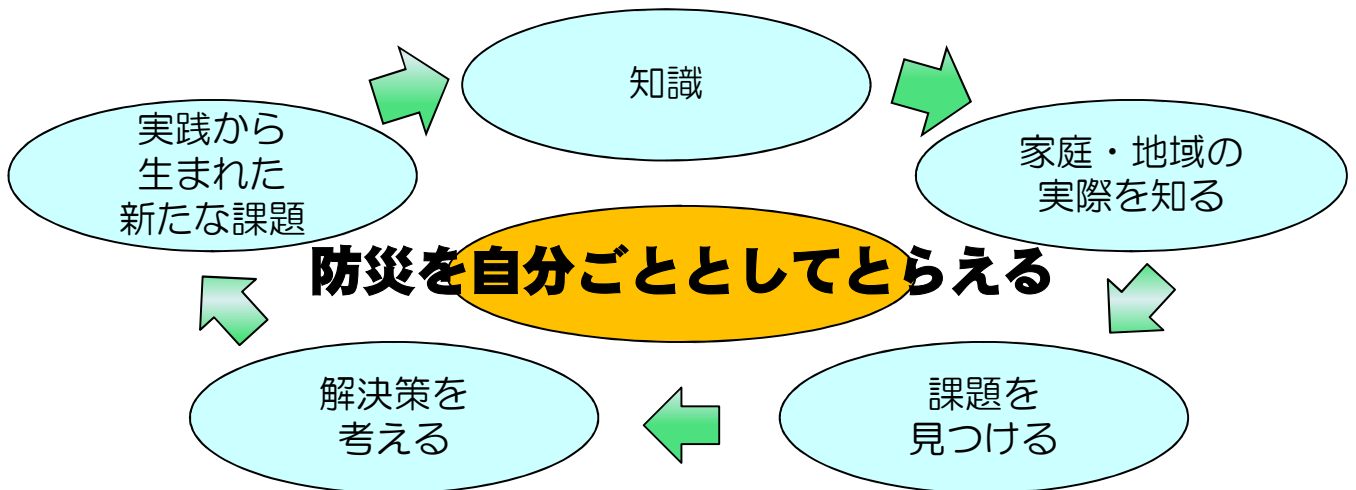
いじめ認知件数の増加は, 学校がきめ細かく子どもを見とろうとする姿勢の表れです。積極的な認知に努めていただくよう, お願いします。

「地域と連携した防災教育」の自校化に向けて



地域と連携した防災教育を進めるよさって何かしら？

北海道で6日間行方不明だった小学校2年生の男の子が無事に保護されたニュースは記憶に新しいところです。知識として知っているからといって、実際にできるとは限りません。子どもたちが、予測不能な社会をたくましく生き抜いていくために、『防災』を自分ごととしてとらえ、学びを深めることで、一生涯使える「災害から生き抜く力」を育む必要があるのです。

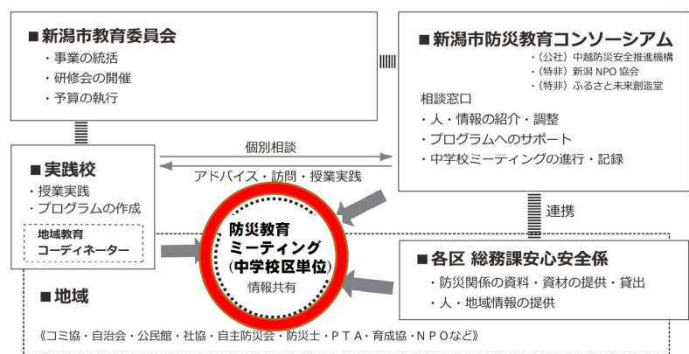


「防災教育」学校・地域連携事業

平成28年度は小中35校を防災教育推進指定校とし、自校化プランの作成、実施をサポートしています。先日実施した「防災教育」学校・地域連携事業説明会・研修会では、各学校の防災教育担当者と地域教育コーディネーターが集まり、事業の目的や内容の理解を深めました。

中学校区単位での地域と連携した防災教育の大切さを確認し、防災教育の推進に向けて、熱心な議論が交わされました。

事業全体イメージと各主体の役割



具体的なイメージがわき、小・中・地域で連携して取り組むことができそうです。防災教育の専門家（コンソーシアムの方）がいて心強く感じました。



地域教育コーディネーターとしての役割が分かりました。中学校区の情報を共有できてよかったです。